

中小企業景況調査結果(平成28年7~9月期)

中小企業の業況は、大幅な低下状況にある

山口商工会議所では、管内中小企業100社を対象に景況調査を実施し、このほど平成28年7~9月期実績と平成28年10~12月期見通しについての調査結果(回答数83社、回答率83%)をとりまとめた。本調査は、3ヶ月毎に年4回行っている。

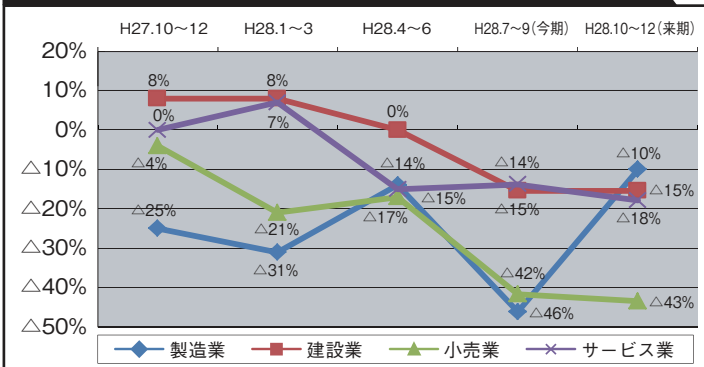
全業種のDI値に見る業況判断動向を前期と比較すると、前期▲14%から▲30%に低下した。業種別にみると、小売業が▲17%から▲42%に低下、製造業は▲14%から▲46%に大幅に低下したが、来期は▲10%に上昇する見込みである。建設業は、0%から▲15%に低下しマイナス水準となった。サービス業は、1%上昇で▲15%から▲14%となり、来期の建設業、サービス業は横ばいの見通し。従業員数は全産業で0%から▲3%と横ばいで、製造業は15%から0%に悪化しているが、小売業、建設業では前回調査比を上回り緩やかに回復している。

新規設備投資については、実施した企業は前期の14%から11%に減少し、来期の設備投資計画についても、実施予定8%と緩やかに減少、経費節減の傾向にある。経営上の問題点については、製造業、建設業、小売業で、「需要の停滞」が挙げられている。サービス業では、「店舗施設の狭隘・老朽化」が第1位となっており、今期も解消されていない。

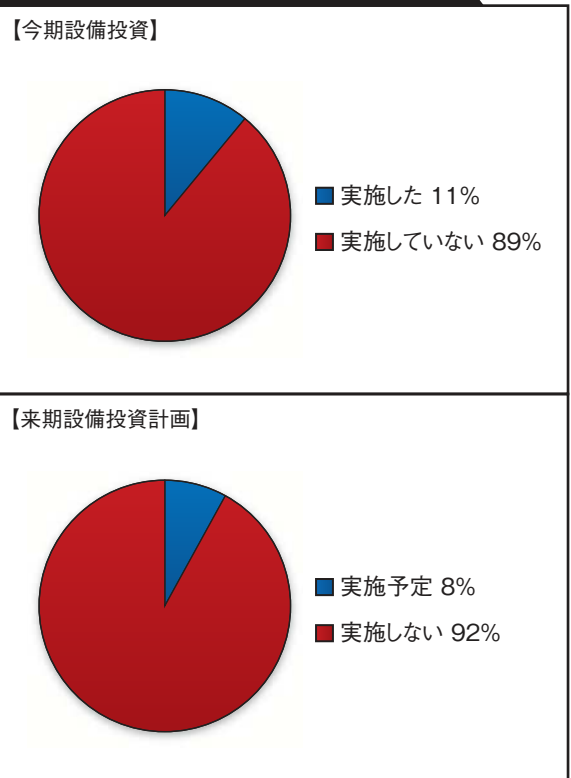
◆業況DI値(今期の状況)

	業況判断	前回調査比	売上	前回調査比	資金繰り	前回調査比	仕入単価	前回調査比	経常利益	前回調査比	従業員数	前回調査比
全産業	△30%	↘	△34%	↘	△15%	↘	5%	↘	△27%	↘	△3%	→
製造業	△46%	↘	△54%	↘	△23%	↘	31%	→	△46%	↘	0%	↘
建設業	△15%	↘	△8%	↗	0%	↘	23%	↘	△23%	↘	8%	→
小売業	△42%	↘	△52%	↘	△36%	↘	△12%	↘	△48%	↘	4%	↗
サービス業	△14%	→	△17%	↘	4%	→	4%	↘	3%	↗	△11%	→

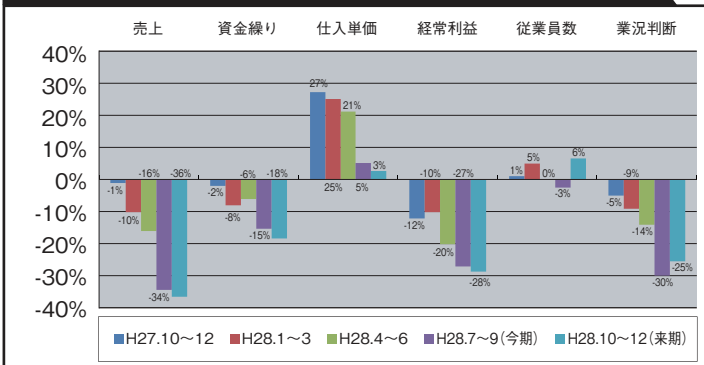
◆産業別業況判断DI(前3期からの推移と来期見通し)



◆新規設備投資(今期実施・来期計画)



◆全産業DI項目別比較(前3期からの推移と来期見通し)



◆経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業
1位	需要の停滞 27.8%	民間需要の停滞 17.6%	需要の停滞 22.2%	店舗施設の狭隘・老朽化 13.8%
2位	生産設備の不足・老朽化 13.9%	従業員の確保難 14.7%	購買力の他地域への流出 19.0%	利用者ニーズの変化への対応 13.8%
3位	製品ニーズの変化への対応 11.1%	官公需要の停滞 14.7%	消費者ニーズの変化への対応 11.1%	従業員の確保難 12.3%

※DIとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。